
原作はブレイクが基本！！

毬藻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

原作はブレイクが基本！！

【Nコード】

N 6 2 9 4 S

【作者名】

毬藻

【あらすじ】

色々な世界が一つに！！

高校時代から書き溜めていた物語を今ここで解き放ちます。

ブレイクはもう確定事項なので苦手な方は見ないことをお勧めします。

大丈夫または怖いもの知らずはご自由にご入場下さい。

今後の責任は持ちませんのであしからず（笑）

プロローグ：物語の始まりはここから・・・（前書き）

毬藻「こんなプロローグでいいのか？」

・・・

毬藻「そう言えば、まだ誰もいないこと忘れてたWWW
では、プロローグが始まります」

プロローグ：物語の始まりはここから・・・

ここは、とある世界が重なった奇跡の世界。
そんな世界から物語が始まりだす・・・はず？

しのぶ「良いのですか？　こんな始まり方で・・・」

怜「俺に聞かれたとしても答えられんが」

知世「その前に、お互いがお互い知らないので自己紹介をした方がいいと思いますわ」

翔子「ん、確かにそうだな・・・」

この四人に、共通点はない・・・と思う（汗）
作者の好みで入れたはず（え

知世「その前に、私たちを集めた方はどなたなんでしょうか？」

怜「・・・俺も、聞いてはいないが」

翔子「ポストの中に手紙が入ってて、『ここに集まれって』書いてたしな。さがすのに、一苦労したよ」

しのぶ「と、取り合えず自己紹介しましょう。私は『前原しのぶ』です」

怜「日渡　怜だ。よろしく」

知世「大道寺 知世ですわ」

翔子「最後は私だな。山野辺 翔子だ。よろしく」

このキャラが知りたい方は『まもって守護月天!』『カードキャプターさくら（CCさくら）』『D・N・ANGEL』『ラブひな』を見直してください by 毬藻

翔子「作者が逃げたし・・・」

しのぶ「それじゃ、改めて私達を呼んだのはどなたなんでしょうか？」

とは言っても、港倉庫の小さな小屋の中。

確かに、こんな薄暗い場所に呼んだ方はどんな根暗だろうか。

陽助「・・・・・・天の声、そのナレーションは流石に酷いぞ？」

翔一郎「そうなんだけどね。一概にも言えないんだけどね（笑）」

しのぶ「・・・・・・初めまして、なんですよね？」

陽助「そうだな。じゃ、自己紹介。俺は『植野 陽助』だ」

翔一郎「堺田 翔一郎。以後宜しくな」

因みに、こいつの『アシスタント』で今回はここに来た」

怜「なんで、俺たちの事を呼んだ？」

陽助「簡単に説明するとあんた等の世界の『バカップル』の隔離の

仕事……グループ旅行に招待しようと思ってな」

おいおい、そんなぶっちゃけていいのか？

陽助「ここでは本来『作品』と言っていたが、何か表現がおかしいからああなったんだろ！」

しのぶ「植野さん……誰と、話してるんですか？」

俺の話は、三人には聞こえない。

怒鳴ったとしても独り言しかないんだよ、今はな（笑）

陽助「あゝ、気にするな。ちよつとした『外部電波（作者）』と話してた」

しのぶ「はあゝ、話は戻しまして『なる先輩』と『景太郎先輩』って事ですよね」

フルネームは『成瀬川なる』と『浦島景太郎』だ

怜「俺の所は原田（姉）と丹羽だな」

この二人のフルネームは『原田 梨紅』と『丹羽 大助』だ。
丹羽には裏顔があるが今は秘密だ。

知世「私たちの所も平気ですわ」

知世の友達の『木之本 桜』と『李 小狼』だ。
小狼はクロウリートの末裔で桜はその血筋さんだ。
父親がクロウリートの半身なんだからしかたない。

翔子「私のほうもいいぞ」

えっと、確か『守護月天【小？】^{シャオリン}』と『七梨 太助』だ。
この主人公は気苦労は耐えないなと思うよ。
それでも、心清らかつて言っるのが凄いと思う。

しのぶ「けど、どうやってこの方たちを誘うんですか？」

陽助「誘うのは俺たちも手伝うし、大丈夫だよ」

そう言つて、堺田は懷から旅行の招待状を渡した。

陽助「あと、行き先は『鹿児島』『和歌山』『大阪』の三箇所だ」

特に考えないで行き先を決めました。（当時）

陽助「高校時代のお前つて一体……」

しのぶ「植野さん？」

陽助「すまんすまん。一筋縄では行かない所が一箇所だけあるな・
・な、山野辺？」

翔一郎「だな」

翔子「あ、あはは」

あゝあ、乾いた声を出してるし。

『シャオ乙女化計画』をしてるもんな。

変な事を色々覚えさせていたし。
特に奈那さんと一緒に（笑）

陽助「そうなんだよな・・・・・・・・さか、そっちのサボを任せるわ」

翔一郎「はいはい、任された」

翔子「あ、よ、宜しく頼む・・・・／＼／」

あゝ、真っ赤になってるな。

こうなる事が分かっていて組むなんて悪い奴だな。

陽助「こっちの恋愛成熟も入ってるんだし。良いとは思うが・」

しのぶ「植野さんも宜しくお願いしますね」

陽助「こちらこそな」

解散していたが、陽助は残っていた。
早く帰ればいいのに。

陽助「早く実体化しろよ」

ポンと音と煙が辺りを包み、それが晴れると一人の男がいた。

毬藻「はいはい、呼ばれたよ。んで、話して何だ」

陽助「この物語書いていいのか・・・」

毬藻「良いんじゃないかな？ 見たいといてく人がいた。俺は、その二人に答えるように書いただけ・・・ただ、それだけだよ？」

陽助「それと、その制服は一体？」

毬藻「学生服、日照学園『鹿児島情勢高等学校』のだよ」

陽助「実名で言ってるし・・・文字は振ってるからある意味でセーラインだな」

毬藻「童心に戻りたかっただけだし・・・ちゃんと『あれ』とか『あれ』書くから気にしないでね」

陽助「てか、危険だろ！！ 18禁の場所で書けよ！！」

毬藻「ま、あまゝ書くから大丈夫www」

陽助「危険範囲場所外で書くように」

毬藻「心得てる。真剣にこつちも突っ込んだら皆に聞こえるからそこは注意しようね」

陽助「了解。期待してるよ、『天の声』」

毬藻「楽しく、あまり弾けない様にが俺の信条だwww」

陽助&毬藻「これから、よろしくお願いします」

プロローグ：物語の始まりはここから・・・（後書き）

毬藻「さて、次回は四つの時間（次元）のカップル（バカップル）に招待状を配布」

葵「今回は特別だ。最初は『まもって守護月天』」

毬藻「次回でお会いしましょう。再会!!」

0 話その1：受け渡し（月天編）（前書き）

訂正：シャオリンの表示方法を片仮名に変更しました。

読めなかった携帯キャリアの皆さん、申し訳ございません

0 話その1：受け渡し（月天編）

はいはい、天の声です（笑）

守護月天の方ですね。

確か、堺田がこっちの補助担当だったな。

翔一郎「こんにちは、すみません、何方かいらっしやいませんか？」

シャオリン「はい、どちらさまですか？」

・・・チイ

やはり一話の郵便やさんの様に吹き飛ばされないか。

翔一郎「・・・天の声、ある意で味容赦ないぞ」

シャオリン「どうか、しましたか？」

翔一郎「あはは、気にしないでください」

紀柳^{キリユウ}「シャオ殿、どうしたのだ？」

奥の部屋から扇の持った一人の女性が出てきた。
地の司る精霊『紀柳^{キリユウ}』だ。

扇で物を大きくしたり小さくしたり出来るのだ。

翔子「よっ、シャオ元気か？」

翔子が翔一郎の後ろから出てきた。

シャオリン「あ、翔子さん。後ろのいる方は知り合いなんですか？」

翔子「うん、知り合いだよ」

翔一郎「初めまして、翔子ちゃんの従兄の堺田 翔一郎といいます」

翔子「実は、渡したいものがあるんだ」

そう言つてポケット漁るが・・・

翔子「あ、あれ？ 入ってない??」

太助「おい、どうしたんだ？」

翔一郎「・・・この前、落としてたよ」

堺田がポケットから取り出したのは、この前会議中に渡した旅行のチケットだった。

太助「これは一体？」

翔子「二人で旅行して来いつて事だ。私の知り合いってか堺田さんが試験的にグループ旅行を開催するから、それでカップルの友達を紹介しろつて言うからさ」

翔一郎「試験的なものだからね。旅費はこつちで負担するよ。あと、旅行場所は『鹿児島』『大阪』『和歌山』の計三ヶ所だ」

??「ん、どうしたんだ？」

階段の下りる音が聞こえ、その方向を見ると一人の女性がいた。
降りてきたのは『七梨^{しちり} 奈那^{なな}』さんで太助の姉さんだ。
この人も旅行好きだ。

奈那「お、山野辺、どうしたんだ？」

そして、奈那は堺田の顔を見た。

奈那「翔子には勿体無いな・・・」

翔子「へっ!？」

翔一郎「は、はい!？」

あゝ、二人の顔が真っ赤。

二人とも意識してるからしかたないかな（笑）

奈那「で、二人ともどうしたんだ」

シャオリン「二人がいただいたちゃいました」

奈那「ほお、旅行のペアチケットか。太助とシャオにか？」

この二人の恋の応援してる奈那さんには分かるか。

奈々「二人で遊びに行っておいで、ここのことは心配することはないから」

翔一郎「夜分遅くに失礼しました。そろそろ、失礼しますね」

これ以上聞かれたら、難しいだろうな説明が。

奈那「私は、二人を近くまで、見送ってくる」

その言葉に、抵抗できないと考え三人は家の外に出た。
暫く、無言で外を歩いた。

家から大分距離が取れたとき。

奈那「ここなら、星神とかには聞こえないと思う」

翔一郎「あの、奈那さん？」

奈那「実は、『天の声』から事前説明は受けている。この旅行に一緒に行けないって事も」

翔一郎「え、あ……」

フッフッフ、事前に動いていたのだよ境田君」

翔一郎『本当にやりたい放題だな……』

しょうがないでしょ、話しの変更しないと色々大変な事になるんだから。

翔一郎「……分りました。お二人をお預かりします」

奈那「ああ、よろしく頼むよ」

そして、奈那は一礼した後家に帰っていった。

翔一郎「さて、太助とシャオリンの二人にチケット配布完了と」

翔子「・・・・・・・・そうだな」

翔一郎「では、前日にまた」

翔子「分かった」

0話その1：受け渡し（月天編）（後書き）

毬藻「受け渡し：月天編終了」

陽助「次は俺の番かな？」

毬藻「普通に『男』じゃ無いからなwww」

陽助「あれは直さないのか!!」

毬藻「直しませんよ。普通に出さないと無理ですからw」

陽助「因みに苗字は？」

毬藻「普通に帰るから心配するな」

陽助「なら、良かった」

毬藻「0話その2：受け渡し（ラブひな編）です」

陽助「感想コーナー。悠久の時間さん。ありがとございます」

毬藻「離珠はですよ。ではでは」

陽助「次回も」

毬藻「再会だ!!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6294s/>

原作はブレイクが基本！！

2011年7月28日08時59分発行